

(1)

No. 119 (平成27年3月1日)



おもな内容

随想	1
研修講座寸描	2~5
出前講座寸描	5
研究の成果と課題, 研究員の実践	6~7
研究協力校の実践	7~8
平成27年度研修講座開催一覧	9
平成27年度の講座開設の工夫, 新設講座の紹介	10
お知らせ	10

下川町はアイスキャンドル発祥の町です。毎年二月に開かれるイベントの会場は町内全域です。本校でも、三年生以上が協力してアイスキャンドル作りに取り組んでいます。完成後は、校門前などに飾り、イベントを盛り上げています。(下川町立下川小学校)

随想

学校の変遷を顧みて



幌加内町教育委員会  
教育長 佐藤 勝

幌加内町は、上川総合振興局の西側に陸路約四十八kmに位置し、南北に六十三kmと山岳に囲まれた細長い町であります。夏の気候は温暖で冬は寒冷・多雪と非常に厳しい気象条件であります。本町の北に位置する道立自然公園「朱鞠内湖」を含む自然豊かな町であります。

また、本町はそばの作付面積、生産量とも一市町村では全国一を誇っており、「幌加内そば」は、全国的なブランドとして知られるようになりました。更に、夏には畑一面、白いそばの花が咲き誇り、雪が降ったような幻像にとらわれるものです。その最盛期には誰もが目を見張るものがあります。

そして、例年九月上旬に今年(八月二十九日)で二十二回を数える「新そば祭り」の開催には、二日間で五万人にも上るそば愛好者が訪れるようになりました。これは本町の人口の三十倍にもなります。

顧みますとこれまで本町では、限りない過疎化の進展、少子化が進む中、児童生徒の数が著しく減少し、学校の統廃合を余儀なくされてきました。

本町の小中学校は、昭和二十五年(一九五〇)、小学校は十一校、在籍児童数は二二五三名、中学校は七校で一〇二九名の生徒が在籍し、施設も充分とはいえず、一クラス五十人を超える状況にありました。

しかし、本町は、昭和三十八年頃から人口減少に伴い、それと併せて学校も統廃合が始まり、徐々に学校が一つ二つと姿を消していく一途を辿ってきました。それぞれの学校の建立は、地域の皆さ

現在、役場所在地に幌加内小・中学校各一校、北に朱鞠内小学校、その他町の幌加内高校があります。児童生徒は小学校九学級で、朱鞠内小学校の三学級が複式学級の八十二名で、中学校は特別支援学級を含む四学級の四十二名のいずれも小規模校であります。

これが数多くの学校が統廃合になり、その歴史を閉じたことは、その時々々の社会の流れに対応した最善の選択と考えますが、姿を消したそれぞれの学校からは、多くの卒業生が世に巣立っていったわけであります。

母校を失った皆さんにとっては、自分の学舎を偲ぶとき、意中には一抹の寂しさを感じるのではないかと思います。「私もそのひとりであります。今後は、このような色々な思い、伝統を継承しながら、今日、本町の教育の最前線となる三校が、幌加内の子供たちの真の母校として時間を刻み、躍動に満ちた故郷の唯一の学校として、着実に歩み続けるものとしたいと思います。

娘が丸となった、地域の子供たちの教育、文化交流の拠点となるべく学校の建立に力を注いだものであります。このような歴史と伝統を持った学校が無くなることも寂しく辛いものであります。



センター日誌

- 11月13日 研修事業拡大会議
- 12月9日 冬季拡大研究会
- 12月19日 センター運営協議会
- 12月26日 1月9日 研究室冬季集中研
- 1月6日 冬季合同所員研修会
- 1月22日 センター組合教育委員会会議
- 2月3日 センター研究発表会
- 2月12日 センター組合議会定例会
- 3月1日 センターだより第119号発行
- 3月31日 平成26年度研究紀要第40号発行
- 4月1日 平成27年度研修講座開催要項発行



小中連携の取組の一環として本校生徒が校区の神居東小学校と雨粉小学校を訪問しています。入学を間近に控えた六年生に中学校生活の紹介や入学後の不安や中学校生活の疑問に答えたり、一緒にゲームをします。その名も「不安解消スツキリ訪問」です。後輩たちが少しでも安心して入学してもらえようという生徒たちは一生懸命です。(旭川市立神居東中学校)

## 平成27年度の講座開設の工夫

- (1) 第15次推進計画の基本方針に添い、教職生活全般を通じた教職員等の資質能力の総合的な向上を目指す講座運営をする。
- (2) 教育経営研修では、教職生活の各段階で求められる専門性の基盤となる資質能力の充実を目指す講座を開設する。
- (3) 教育指導研修のうち、これまで実施してきた「幼稚園教育」は、幼稚園と小学校との滑らかな接続を図る観点から「幼小連携教育」講座とする。
- (4) 教育課題研修では、多くの今日的教育課題に対応するため、年度ごとに課題を設定する「学校力向上対策」講座を新設する。初年度は、「学力向上」をテーマとする。また、これまで開設してきた「社会教育」講座を「学校・家庭・地域の連携」を重視する講座に改編する。「教育講演会」は、今日的教育課題解決を目指したテーマ設定とする。
- (5) 教科等指導研修では、小中間の連携を図るため、各校種合同で理論研修を行うとともに小中それぞれの授業研修を行う。
- (6) 教科実技研修では、研究授業を重視する。また、これまでの「指導技術基礎」講座を整理・改編し、「ICT活用」に特化する講座とする。
- (7) パソコン実技では、普及著しい「タブレットPC講座」を入門と活用に分けて開設するとともに、個別の課題解決など受講者のニーズに応えられる講座を開設し、複数講師による少人数指導で対応する。
- (8) 北海道立教育研究所と連携し、「ミニ道研」を開催する。
- (9) 期限付教員の指導力向上のため、各講座への積極的参加を勧める。
- (10) 講座開設情報は、開催要項に加え、「センターだより」、WEBサイト、電子メールによる講座案内等により広く提供していく。
- (11) 講座運営に関する各種資料、関係図書の利便性をはかれる資料室の充実に努める。

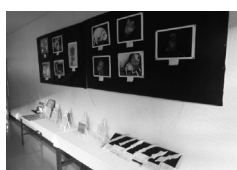
### 【新設・改編講座紹介】

新講座名	開催日	講座内容
<b>学校力向上対策</b> ※ミドルリーダー向けの新講座です！	8月4日 (火)	多くの今日的教育課題に対応するため、年度ごとに課題を設定し、講義・提言・研究協議を行う講座を新設します。H27は「学力向上」をテーマに取り上げ、研修を深めます。なお、H28は「小中連携」、H29は「キャリア教育」をテーマとします。
<b>幼小連携教育</b>	8月6日 (木)	今までの「幼稚園教育」講座を改編し、幼小連携を強く意識した講座です。幼児教育と小学校教育を円滑に接続させる指導の在り方についての研修を一層深めます。H27は「小1プロブレム」等について取り上げます。
<b>ICT活用</b>	8月26日 (水)	今までの「指導技術基礎」講座を整理・改編し、授業改善に生かすICT活用に特化した講座です。講義・実技の他に、研究授業公開も行います。H27は機器を複数用いたメディアミックスを取り上げます。
<b>学校・家庭・地域の連携 (社会教育)</b>	10月8日 (木)	今までの「社会教育」講座を改編し、学校・家庭・地域の連携を強く意識した講座です。大学・民間関係者や教育委員会社会教育主事等を講師に、講義・提言・研究協議等を行います。H27は「学力・体力向上」をテーマに取り上げます。

#### <平成26年度の展示>

「書に親しもう」・  
「絵に親しもう」講座  
受講者作品展示  
1月16日～3月初旬

士別市立多寄中学校  
生徒作品展  
11月10～28日



展示・展覧スペースとしてご利用いただけます。申し込みはセンター事務局にて受け付けております。  
**ギャラリー(せん)を  
ご利用ください！**

#### 資料を ご利用ください

平成26年度は研修センター講座を35講座実施しました。廊下には、講座の様子を掲示しています。また、センター事務室・1F第2研修室には、書籍のほかに講座で使用された講義・提言資料に加え、学習指導案も保管しています。どうぞお気軽に足を運び、ご利用ください。

発行日 平成二十七年三月一日  
 発行所 上川教育研修センター  
 〒077-0100 旭川市六条通四丁目  
 電話(0116)241-2501  
 矢口元晴  
 東信印刷株式会社  
 印刷所

※この用紙は再生紙(古紙70%)を使用しています。

# 平成27年度 上川教育研修センター開催予定講座

番号	講座名	期日	研修内容の概要(上段:講座名 下段:平成27年度の重点テーマ)	授業
1	いじめ・不登校	5/12	一人一人を大切に、「いじめ・不登校」を未然に防ぐ指導 『いじめ・不登校』の予防と対策の在り方	
2	特別支援教育	5/13 ① 6/12 ②	個別の教育ニーズに応える多様な指導の充実を図る特別支援教育 「児童生徒の障がいの特性に応じた自立活動の指導の在り方」(②で授業研究)	小・中
3	学級経営	5/14 ① 10/13 ②	児童生徒一人一人が自己実現を実感できる学級経営 「児童生徒のよさや可能性を伸ばし、信頼関係を築く学級経営」(②で授業研究)	小・中
4	学校経営Ⅰ	6/10	変化の激しい時代に対応した学校経営(学校経営Ⅰ) ※採用2年目以降の校長が対象 「新時代を切り拓く創意ある学校経営の在り方」	
5	学校経営Ⅱ	6/11	確かなリーダーシップを発揮する学校経営(学校経営Ⅱ) ※昇任2年目以降の教頭が対象 「スクールリーダーとしての教頭の在り方」	
6	読書活動	6/12	児童生徒の主体的、意欲的な「読書活動」の推進 「読書活動を推進するための組織的な取組～学校図書館利活用の諸課題」(授業研究あり)	小
7	書写実技	6/23	日常に生きて働く書写力を育てる書写実技 「基礎・基本を徹底し、確実な定着を図る学習指導」(授業研究あり)	小
8	小学校外国語活動	7/1	積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育む小学校外国語活動 「小学校外国語活動の指導計画の作成と授業研究」(授業研究あり)	小
9	複式教育	7/2	主体的・創造的に学び、生きる力を育む複式教育 「学び合いにより「確かな学力」を育てる指導」(授業研究あり)	小
10	国語科指導	7/28 ① 9/8 ②	言語活動の充実を図る国語科指導 「言語活動の充実を図る国語科指導の工夫・改善～『話すこと』・『聞くこと』」(②で授業研究)	小・中
11	算数・数学科指導	7/29 ① 9/2 ②	考える楽しさと学びの深まりを実感できる算数・数学科指導 「根拠を明らかにし、筋道を立てて体系的に考え表現する授業の在り方」(②で授業研究)	小・中
12	外国語科(英語)指導	7/29 ① 9/2 ②	コミュニケーション能力の基礎を養う外国語科(英語)指導 「『読むこと』・『書くこと』の指導と評価」(②で授業研究)	中・小
13	道徳教育	7/30 ① 9/1 ②	道徳的実践力を育成する道徳教育 「道徳の時間の授業展開について」(②で授業研究)	小・中
14	学校事務実務	7/30 7/31	教育活動の円滑化を図る学校事務実務 「学校事務における今日的課題～教育予算における現状と今後の課題」	
15	理科指導	7/31 ① 9/8 ②	科学的な思考力・表現力を育てる理科指導 「『エネルギー』「粒子」領域の科学的な見方や考え方の育成」(②で授業研究)	小・中
16	学校力向上対策	8/4	今日的な教育課題の解決を図る学校力向上対策 「確かな学力の育成を目指すアクションプラン」	
17	生徒指導	8/5 ① 9/9 ②	児童生徒の自己指導能力の育成を目指す生徒指導 「日々の教育活動における生徒指導の機能を生かした指導の在り方」(②で授業研究)	小・中
18	生活科・総合的な学習の時間	8/5 ① 10/15 ②	体験と表現が連動する生活科・協同して探究する総合的な学習の時間 「生活科」及び「総合的な学習の時間」の充実を求めて～地域と関わる単元」(②で授業研究)	小・中
19	社会科指導	8/6 ① 10/9 ②	社会的な見方や考え方を養う社会科指導 「社会的事象に関する基礎的・基本的な内容を身に付けさせる指導の工夫」(②で授業研究)	小・中
20	幼小連携教育	8/6	小学校への滑らかな接続を目指す幼小連携教育 「今日的な課題への対応(小1プロブレム・特別支援教育)」	
21	ICT活用	8/26	授業改善に生かすICT活用 「ICTを効果的に活用した学習指導の在り方～各種機器の基礎的な活用方法」(授業研究あり)	小
22	技術・家庭科実技	8/26	生活をよりよく工夫しようとする実践的な態度を育てる技術・家庭科実技 「食生活と自立(中学校 技術・家庭科)」(授業研究あり)	中
23	学級活動	8/28	望ましい人間関係とよりよい生活を築く学級活動 「『学級や学校の生活づくり』の指導の充実」(授業研究あり)	小
24	図工・美術科実技	8/28	感性を働かせながら、豊かな情操を養う図工・美術科実技 「[共通事項]を意識した授業づくり」(授業研究あり)	中
25	教育講演会	8/31	講師 栗原 慎二氏(広島大学大学院) テーマ 「誰もが行きたくなくなる学校を創る」(仮題)	
26	校内研修	9/9	年度の重点目標の具現化を目指す校内研修 「『確かな学力』を育む研修活動の充実」(授業研究あり)	小
27	体育科実技	9/30	運動に親しむ基礎を培い、体力の向上を図る体育科実技 「体づくり運動、器械・器具を使った運動遊び、器械運動」(授業研究あり)	小
28	学校・家庭・地域の連携(社会教育)	10/8	子どもたちの生きる力を育む学校・家庭・地域の連携(社会教育) 「地域全体で子どもたちを育てる実践～学力・体力向上」	
29	国際理解教育	10/13	国際社会で主体的に生きていくための資質や能力を育てる国際理解教育 「国際理解教育の実践の工夫～総合的な学習の時間における指導」(授業研究あり)	小
30	音楽科実技	10/14	感性を豊かに働かせて表現する音楽科実技 「歌唱の表現の工夫及び指導方法の工夫」(授業研究あり)	小
31	保健安全指導	10/15	生命尊重と、豊かな心を育む保健安全指導 「学校におけるアレルギーに関する指導の在り方」(授業研究あり)	小
32	ミニ道研A	10/29	北海道立教育研究所によるコース別研修 「ミドルリーダー養成」・「キャリア教育」	
33	ミニ道研B	10/30	北海道立教育研究所によるコース別研修 「学習評価を踏まえた授業改善」・「生徒指導、教育相談A」	
34	書に親しもう	1/6	自分なりの表現で書に親しむ文化講座 「心に残る言葉を題材にした小作品づくり」(午前 半日日程)	
35	絵に親しもう	1/6	自分なりの表現で絵に親しむ文化講座 「切り絵で心を伝える作品制作」(午後 半日日程)	
36	センター研究発表会	2/4	「学び合いで確かな学力を育てる学習指導の在り方」に関する第16次3か年計画の2年次の研究を発表～センター研究員の実践、研究協力校の実践～	
パソコン実技	A 1校務のための表計算入門	7/6 10/28	成績や会計をはじめ、さまざまな校務に応じた表計算ソフトの基本的な操作について(初心者向け)	
	B 2校務のための表計算活用(個別)	8/3	日常で使用しているデータなどで困っていることを個別に解決する講座(初心者向け)	
	B 1校務のための表計算活用	8/7 11/9	成績や会計をはじめさまざまな校務に応じた表計算ソフトの便利な活用について(中級者向け)	
	C 2校務のための表計算活用(個別)	1/13	日常で使用しているデータなどで困っていることを個別に解決する講座(中級者向け)	
	C 1学校ウェブサイト作成と画像処理(ビルダー)	6/29	ホームページビルダーを使用した学校ウェブサイト作成の仕方や画像処理について	
	C 2学校ウェブサイト作成と画像処理(CMS)	6/30	CMSで作成した学校ウェブサイト更新の仕方や画像処理について	
	D 学校で役立つプレゼンテーション	9/11	授業や各種発表会で効果的に活用するプレゼンテーションソフトの活用について	
E 学校で役立つ画像処理と動画編集	12/28	教材や各種通信、掲示物の作成に活用できる画像処理、Loilo Scope2による動画編集について		
F 学校で役立つタブレットPC入門	7/30 1/8	タブレットPCの基本的な操作や、授業での活用方法・役立つアプリの紹介について		
G 学校で役立つタブレットPC活用	8/4 1/15	タブレットPCを授業や校務で効果的・効率的に活用する方法について		

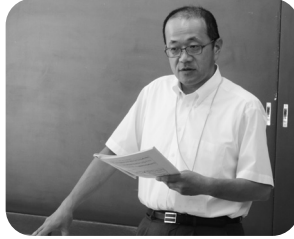
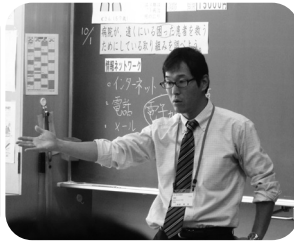
～正式な日程は、4月にお届けする「研修講座開催要項」でご確認ください。～

11 社会科指導 7/29 10/1

金 政辰 (北海道教育大学旭川校 准教授)  
 野村 智明 (忠和小 教頭)  
 二階堂 貴裕 (近文小 教諭)  
 新山 竜彦 (忠和中 教諭)

講師

社会的事象のとらえさせ方や言語活動を用いた授業づくり等を学びました。特に発問の組み合わせは、生徒の理解を左右するので、研修の成果を生徒に還元できるよう、教材研究に力を入れています。ありがとうございました。(中川町立中川中学校 高橋 寛光)



講座の様子から

研修講座寸描

26 国際理解教育 10/2

武山 昌裕 (雨紛小 教頭)  
 山名 正記 (知新小 教諭)  
 村上 政義 (共栄小 教諭)

講師

国際理解教育は、外国の事が必ず入るというイメージがありました。しかし、それが全てという訳ではなく、他者を理解しようとする共生の心を育むことも国際理解の考え方につながっていくことが分かりました。ありがとうございました。(美瑛町立美瑛小学校 細川 智子)



27 保健安全指導 10/2

相川 奈生 (旭川中 養護教諭)  
 三井 政紀 (六合中 教諭)

講師

坂田 朗子 (士別市立士別西小学校)

児童生徒をどう支援していくか、その在り方やゴールについて改めて考える機会となりました。事例に対して支援の方法を提案した演習では、チームで問題解決にあたることの大切さを実感することができました。ありがとうございました。



28 社会教育 10/7

安部 尚登 (ビブリオバトル北海道 理事)  
 喜多 武彦 (有限会社豊富堂 代表取締役)  
 六戸 敏彦 (剣淵町教育委員会 教育課長補佐)  
 石田 貴宏 (上川教育局社会教育指導班 主査)

講師

午前はビブリオバトルの奥深さを感じ、午後は本に関する実践発表や情報交流と一日中、本を持つ魅力とその可能性を体験できた研修でした。家庭や地域に戻ってまた学校で活かしたいと思いません。ありがとうございました。(旭川市立愛宕中学校 加納 彰子)



(3)



(下川町立下川小学校 森野加理奈)

29 書写実技 10/7

講師

矢野 敏文 (北海道教育大学旭川校 教授)  
石井 千賀 (東明中 教諭)

学習の進め方や筆の持ち方など、授業に役立つ内容を、実技を交えながら教えていただきました。また、筆使いの指導について、小学校・中学校それぞれの視点から、ポイントを丁寧に教えていただき、ありがとうございました。

3 学級経営② 10/8

桑原 啓成 (愛宕小 教頭)  
岡 栄樹 (神楽小 教諭)  
竹谷 康史 (東栄小 教諭)  
水上 典美 (北都中 教諭)

講師

岩城 司

学級経営の基本は、児童観察が大切であること、授業や全ての教育活動は、子どもとの信頼関係が基盤になることがわかりました。研究協議では、実践交流から様々な学級の実態を知ることができ、自己の教育観が広がりました。(富良野市立樹海小学校)



(富良野市立樹海小学校 蜂谷百合恵)

16 生徒指導 8/1 10/9

講師

浜崎 成巳 (永山西小 教頭)  
神谷 雅和 (末広小 教諭)  
山田 敏之 (光陽中 教諭)

指導者が児童生徒の人格を尊重しながら進めていく授業は、学校教育の基本であると感じ、大変有意義なものでした。そこから、「子ども一人一人をどう育てていくか」を常に考え、目標をもって指導することの大切さを改めて学びました。

18 生活科・総合的な学習の時間 8/4 10/10

高橋 一寛 (正和小 教頭)  
米澤 徳之 (朝日小 教諭)  
西村 美樹 (西御料地小 教諭)  
高綱 智美 (明星中 教諭)

講師

佐藤 瑛里

生活科・総合的な学習の時間におけるこれまでの成果と課題や指導力の向上を図るために必要なことなどを学ぶことができました。また、すぐに生かせる教育実践例なども提示していただき、大変有意義なものとなりました。(旭川市立知新小学校)



**協力校の実践**

～ 三人組のグループ学習を通して  
表現力を高める学習形態の工夫 ～

旭川市立愛宕小学校三年 算数科

～ 二桁×一桁の計算の仕方を考え、表現する学習 ～

授業者 浅田 則行

**一 本時の目標と指導の重点**

本時の目標を「十進位取り記数法に基づき考え(12×4)10×4+2×4)を基にして、(2位数)×(1位数)の計算の仕方を考えることができるようにする。」とした。また、集団思考の場面では、多くの児童に話す機会をもたせ、思考を明確にするためのグループ交流を取り入れてから、まとめにつながる全体交流を行うことで、思考しやすくなり、表現力も高まると考えた。

**二 指導の重点に基づく分析**

学習形態の工夫では、発表内容を聞きながら児童が思考を深めていけるように、児童間で発表内容を補完させたり、同じ内容をもう一度復唱させたりするように配慮してきた。また、自分の意見と比較させることを大切に、「同じか違うか」「似ているか似ていないか」を常に問いかけるようにしてきた。その結果、意欲をもって、全体交流できるようになり、思考力や表現力が高まった。

**三 本時の言語活動と成果**

**段階①【個人思考】**  
12×4の答えを求め、考え方を図や言葉でノートに表す。

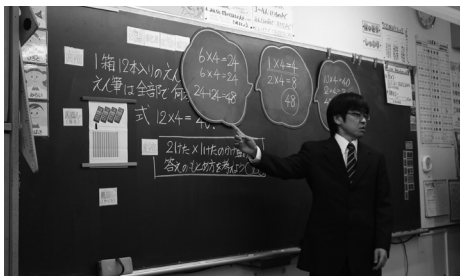
**段階②【集団思考】**

まずは、三人組のグループで交流し、自分と友達の違いに気付き、さらに全体交流で、よりよい考え方について学び合う。

**段階③【思考のまとめ】**

十の位と一の位に分けてかけ算するとよいことについて学級全体でまとめる。

思考の流れを大切にすることでまとめまでスムーズに行うことができ、目標を達成することができた。



**協力校の実践**

～ 実験の予想と仮説を関連づけて  
考える発問の工夫 ～

旭川市立東光小学校四年 理科

～ 示温タイプの変化と温まり方を関係付けて考察し、科学的な見方や考え方を養う学習 ～

授業者 平井 佐知

**一 本時の目標と指導の重点**

本時の目標を「示温タイプなどの変化と温度変化を関係付けて、金属の温まり方について考察し、自分の考えを表現することができる。」とした。また、検証するための実験の予想を、自分の仮説と関係付けて考える発問を工夫することにより、目的意識をもたせ、目標を達成することができると考えた。

**二 指導の重点に基づく分析**

発問の工夫により、実験するときの観察視点が焦点化され、個人思考(考察)へとつながっていった。また、理科室では教室のように板書を掲示しておくことが難しいため、PCに記録しテレビに映し出す工夫を行った結果、検証は仮説に基づくものであるという意識をもたせることができ、結果と仮説を照らし合わせた考察にすることができた。

**三 本時の言語活動と成果**

**段階①【個人思考】**  
斜めにした金属はどのように温まるか考察する。

**段階②【集団思考】**

個人思考した考察を交流する。  
**段階③【思考のまとめ】**  
結論をみんなで考え、ノートに書く。

集団思考で発表された考察から、結論で使えるようなキーワードを探し、まとめへとつなげ、本時の目標を達成することができた。



**研究員の  
実践**

思考を促し、表現力を高める  
言語活動の工夫

加川市立明星中学校 一年 数学科  
数量を式に表し、その考え方を表現する学習

研究員 青木 賢一

一 本時の目標と指導の重点

本時の目標を「数量の関係を、文字を用いた式でどのように表すかを、適当な数を用いて考えることができるようにする。」とした。まず文字を用いた式を作らせ、なぜそのような式になるのかを考えさせることで、自分が思考したことを、分かりやすく表現する方法を考えさせる。そして、様々な思考と表現方法に触れさせることで、個人の思考力と表現力を高めていくことにつなげていきたいと考えた。

二 指導の重点に基づく分析

個人思考の方法を多様化させたことで、集団思考での比較検討がより深いものとなった。より分かりやすい考えはどれかと比較検討させること、いかに簡単に分かりやすく表現していくかという意識付けにつなげることができた。

三 本時の言語活動と成果

段階①【個人思考】

文字を数に置き換えたり、数直線や図を用いたりして説明する方法を考える。

段階②【集団思考】

個人思考で考えた理由を交流する。

段階③【思考のまとめ】

集団思考での比較検討から、まとめを導く。

集団思考で比較検討し、まとめにつなげることで、適用問題にもスムーズに取り組み、本時の目標を達成することができた。



**協力校  
の実践**

板書とワークシートを一体化させ、  
生徒の思考を促す工夫

東川町立東川中学校 一年 国語科  
古典の読みの楽しさを味わい、作品に描かれた世界と現代のつながりを考える学習

授業者 菊池 杏子

一 本時の目標と指導の重点

本時の目標を「物語のおもしろさを知り、作品に描かれた世界と現代とのつながりを考えることができる。」とした。また、竹取物語が今でも多くの人々に楽しまれてる理由を探るという単元を貫く言語活動を設定し、毎時間、目的意識をもって学習に臨むことができるようにするとともに、思考の流れを視覚化することで、目標を達成することができると考えた。

二 指導の重点に基づく分析

板書とワークシートを一体化する工夫を行うことにより、どの生徒も思考の流れを視覚的に捉えることができ、自分の考えをもたせることに効果的であった。また、ワークシートを互いの考えを交流する際の根拠として紹介し合うことで集団思考が充実したものとなった。

三 本時の言語活動と成果

段階①【個人思考】

別れの場面でのかぐや姫の気持ちを考える。

段階②【集団思考】

自分の考えを全体で発表する。

友達の考えに対して自分の意見を発表する。

段階③【思考のまとめ】

かぐや姫の気持ちに気付く。

集団思考で交流された考えを関連付け、個人のまとめへとつなげ、本時の目標を達成することができた。



17 道徳教育 8/4 10/15

講師II

水上 丈実 (北海道教育大学旭川校教職大学院 教授)  
 山本 浩貴 (東五条小 教諭)  
 小酒井晃子 (近文第一小 教諭)  
 大面 恵理 (永山中 教諭)

センターでの講座では、指導計画や授業作りに即座に反映できる手立てが多く、大変勉強になりました。また、児童生徒の実態に応じた様々な工夫や想いの詰まった授業を見せていただいたこと、活発な協議でいろいろな視点から考え気づくことができたこと等、充実した研修となりました。

(名寄市立中名寄小学校 濱田 愛)



30 体育科実技 10/14

講師II

小出 高義 (北海道教育大学旭川校 教諭)  
 山田 宏美 (豊岡小 教諭)

ダンスの魅力は、自由に創る楽しさや思いがけなく新しいアイデアに気付くことだと感じました。児童たちの明るく元気に生き生きとした表情で学ぶ姿に感動し、生涯にわたって健康に生きるための体育の充実に思いを新たにしました。

(旭川市立常盤中学校)

佐藤 正史



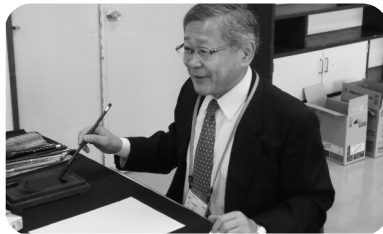
31 書に親しもう 1/7

講師II

小嶋 康博 (愛宕中 校長)

自分の思いを表現する言葉を書くためのヒント、用具の種類や扱い方等、とても勉強になり、大変有意義な講座でした。書きたい思いのままに書いた言葉は相手に伝わることを実感いたしました。分かりやすくご指導いただき、本当にありがとうございました。

(旭川市立豊岡小学校 本多 希)



32 絵に親しもう 1/7

講師II

栗林 友恵 (神居東小 教諭)

和紙に筆で描くだけでなく、スポンジでスタンプを押すように描くなど、墨絵による表現の多様性に触れることができました。出来上がった作品を参加者同士で鑑賞する機会もあり、楽しく墨絵の表現に親しむことができました。

(上富良野町立上富良野西小学校 中明 千紘)



(5)

33 ミニ道研 A 12/26



(和寒町立和寒中学校 北川 智之)  
いきたいと思います。

ICT活用に関心をもたせる、  
という意味合いが個人的には強  
かったが、そこから発展させてい  
き、言語活動の充実にも活かせる  
ことがわかり、大変参考になりま  
した。今後、様々な面で活用して

中島 健朗 (北海道立教育研究  
所附属情報処理教  
育センター 研究  
研修主事) **講師 II**

34 ミニ道研 B 1/16

大脇 明子 (北海道立教育研究  
所 研究研修主事) **講師 II**  
澤村 巧 (北海道立教育研究  
所 研究研修主事)

(旭川市立西御料地小学校 林 裕輔)

講座を通して、言語活動の充実を図る  
ことの大切さを学ぶことができました。  
言語活動が目的となる授業ではなく、  
授業のねらいを達成するために核となる  
言語活動を位置付けていけるよう自校で  
さらに研鑽を積んでいきます。実りのあ  
る研修でした。ありがとうございます。



智恵文中「生徒指導」 10/9



【講師：目黒 克彦 (美深町立仁宇布中 教頭)】  
今回の研修では、生徒指導上大きな問  
題がないのが研修を深め、生徒を伸ばす  
チャンスであること、事故対応では、ス  
ピード感を持ちつつも適切に対応するこ  
との大切さを学びました。ご指導ありが  
とうございました。  
(名寄市立智恵文中学校 村田 美穂)

啓北中「生徒指導」 10/1



【講師：井上 重美 (上級教育カウンセラー)】  
今日の講座で学んだエクササイズは、  
すぐに学級に活かせる内容ばかりで大変  
勉強になりました。研修終了後は参加者  
の表情もほぐれ、会場の空気も暖まった  
ように感じました。きめ細やかにご  
指導いただきありがとうございました。

出前講座寸描

多寄小「各種実技指導」 10/27



【講師：山田 宏紀 (忠和小 教諭)】  
マット運動と跳び箱運動の実技を通し  
て、実際に体を動かすことで子どもたち  
の気持ちになって指導方法をまなぶこと  
ができました。子どもたちが体の動きを  
意識できるような声かけや支持の仕方な  
ど大変勉強になりました。  
(士別市立多寄小学校 紺野 愛子)

次年度も出前講座の申込みを  
お待ちしております

平成二十六年度は研修センター出前講  
座を九校で十一講座実施しました。教科  
指導をはじめ、生徒指導・特別支援教  
育・今日的な教育課題・パソコン実技・  
各種実技指導など、様々なニーズに合わ  
せての講師派遣を行っております。当日  
は、担当のセンター指導員が運営いたし  
ます。校内研修や実技研修などにお役立  
ていただけますので、どうぞお気軽にお  
問い合わせいただき、ご活用ください。  
開催要項の専用紙にてファックスいた  
だきお申込みいただけます。申し込みは、  
随時受け付けております。

上川教育研修センターでは、理論研究と実践検証を行った結果、1年次は、次のような成果と課題を明らかにすることができた。

### 成 果

- 3段階の言語活動（個人思考・集団思考・思考のまとめ）を問題解決的な学習過程の中に意図的・計画的に位置付けることで、思考力・判断力・表現力を育むことができた。
- 思考を促し深めるための発問、様々な考えを比較しながら思考を整理するための板書、効果的に言語活動を行うための学習形態などを工夫することで、児童生徒の思考力・判断力・表現力を育み、確かな学力を育成していく授業を行うことができた。
- 思考力・判断力・表現力の評価の在り方について方向性を見だし、実践を積み上げることができた。

### 課 題

- 各教科の特質に応じた言語活動の位置付けについて、研究を深める必要がある。
- 思考力・判断力・表現力の評価について、内容を充実させる必要がある。

詳細は、3月発刊の研究紀要第40号をご覧ください。

研究室だより

今、研究室では

第十六次研究 一年次

研究主題「学び合いで確かな学力を育てる学習指導の在り方」  
 ↳思考力・判断力・表現力を育む指導と評価↳

研究員の実践

↳単元を貫く言語活動「音読劇をしよう」を支える部分的な言語活動の工夫

旭川市立旭川第三小学校二年 国語科

↳場面の様子について、登場人物の行動を中心に

想像を広げながら読む学習

研究員 竹中 一三

#### 一 本時の目標と指導の重点

本時の目標を「2つの『ああ』という会話文の違いの読み取りを通して、会話文の意味やその周りの文、挿絵から場面の様子について想像を広げられることを知り、台本に音読の仕方や体の動かし方を書き込むことができる。」とした。会話文を比較させたり、問い返したり、揺さぶったりする発問を適宜行った。また、思考と表現をサポートする板書を工夫することにより、集団思考の段階で焦点化や共有化を図り、目標を達成することができると考えた。

#### 二 指導の重点に基づく分析

比較させる発問を工夫したことが、個人思考を活性化する手立てとなった。また、構造的な板書の工夫をすることにより、意見や考えを整理・分類することができ、思考と表現のサポートにつながった。

#### 三 本時の言語活動と成果

段階①【個人思考】  
 何を手掛かりにして会話文の読み方を考えるのか自分の考えをノートに書く。

段階②【集団思考】  
 ノートに書いた自分の考えを発表したり、場面の様子を想像しながら交流したりする。

段階③【思考のまとめ】  
 「会話文の意味」「会話文の周りの文」「挿絵」を手掛かりにするよきことを整理する。

思考のまとめで整理された手掛かりを基に、台本への書き込みを行い、目標を達成することができた。

